

第 4 回西の湖廻遊路整備推進会議（2022.3.23）資料

西の湖まちづくり提案（「安土未来づくり アクションプラン」より）

京都大学 景観設計学研究室

学生チーム 谷川・清水・中村・榎谷・畑 + 山口

安土未来づくりのコンセプト

「安土感動体験 -地域の豊かな原体験の継承と、地域資源を活用した新たな文化の創造-」

西の湖周辺まちづくりのための重点アクションプラン

安土未来づくりの過程におけるヒアリングやワークショップの投票から、最も期待が大きいことが明らかとなったため、西の湖周辺の活用アイデアの具現化に最初に取り組む。また、西の湖周辺の水辺や既存施設の活用は、将来的に集客や事業採算性が見込め、取り組みの継続性やまちづくりの展開可能性が大きい。そこで、主に観光・レクリエーション系の民間事業者ヒアリングを行って、潜在的な事業性と、事業化において必要になる取り組みを確認し、プランを検討した。

重点アクションプラン ① 「西の湖テラス」（西の湖水辺・公共施設活用）

取組	活用資源	取組の内容 (ハード/ソフト)	想定される 主体/協力主体	取組 時期 (2年 以内)	(3- 5年)	(中長 期)	
西の湖テラス	西の湖すてーしょん	ハード	内装リニューアル、カフェやコワーキング・スペース整備、アウトドア拠点整備	民間事業者 (定期建物賃貸契約等)			→
		ハード	デッキ整備（夕日のブランディング、アウトドア・カフェの利用）	民間事業者 (定期建物賃貸契約等)		→	→
		ソフト	イベント時の利用（倉庫、休憩所、シャワー、着替え場）	水上アクティビティ事業者等	→	→	
		ソフト	レンタルサイクルの実施	レンタルサイクル事業者等	→	→	→
	豊浦舟だまりの河川空間・水面利用	ハード	港及び水辺空間整備（護岸、棧橋、休憩場所、道、緑化）	行政			→
		ハード	近隣市有地の活用（公民連携事業）	行政			→
		ソフト	放置船の撤去、清掃	行政、地域団体	→		
		ソフト	河川空間利用（キッチンカー、カフェ等）	民間事業者 (河川占用主体)	→		→
		ソフト	屋台船カフェ、サンセットクルーズ（食事提供）	民間事業者 (公募)	→		→
		ソフト	水上のシンボル作成（台船、葦アート）、湖面のライトアップ	学校、地域団体	→		→

西の湖を活用したまちづくりの拠点として、西の湖すてーしょん及び豊浦舟だまりの積極的利活用を図る。中長期的には、定期建物賃貸借契約等により民間事業者の参入を図り、従来の福祉機能、コミュニティ形成機能を拡充しつつも、湖岸の環境や立地の優位性を活用し、多世代が集い、憩える場所をつくる。そのためには、拡充する機能に応じたハード整備と、ソフト施策が不可欠である。ソフト施策としては、豊浦舟だまりにおける河川空間の占用を含めて、整備・活用の可能性を確認するための社会実験の実施を検討する。

一方、長期的には、近隣の市有地における官民連携事業の可能性の検討も重要な課題となる。



西の湖すてーしょんデッキ整備イメージ（谷川，山口作成）



豊浦港 改修整備イメージ（谷川，山口作成）

重点アクションプラン ②「西の湖キャンプ」(西の湖水辺・公共施設活用)

取組	活用資源	取組の内容 (ハード/ソフト)	想定される 主体/協力主体	取組 時期 (2年 以内)	(3- 5年)	(中長 期)	
西の湖 キャンプ	西の湖ふれあいセンター・安土B&G海洋センター	ハード	グランピング、キャンプ施設の整備(西の湖ふれあいハウス、安土B&G海洋センター、安土B&G海洋センター近隣の民地)	民間事業者 (グランピング等)			→
			釣り客・観光駐車場の活用・整備(船上ホテル、東屋整備)	民間事業者等			→
	ソフト		水上アクティビティ体験(水郷エリアはSUP、西の湖はカヌー)、冬場の環境学習	B&G海洋センター、水上アクティビティ事業者等	→		
			アウトドア体験(キャンプ・バーベキュー)、戦国スタイルのキャンプ(武士の野営、焚き火)イベント	地域団体、民間事業者(飲食等)	→		
			宿泊とセットのツアー開催、ウェルネスツアー開催(ウェルネスウォーク、サンセット・SUPヨガ)	観光事業者、地域団体	→		
			自然体験学習(西の湖ふれあいハウスの活用)	地域団体	→		

その他の活用資源

- よしきりの池
- 下豊浦 釣り客・観光駐車場
- 下豊浦 近隣の市有地

西の湖を活用した環境学習の拠点として、西の湖ふれあいセンター及び安土 B&G 海洋センターの積極的利活用を図る。中長期的には、湖岸の環境や立地の優位性を活用し、定期建物賃貸借契約等による NPO や民間事業者の参入を図り、キャンプやバーベキューなどの拠点機能の拡充を図り、多世代が集い、憩える市民レクリエーション並びに着地型観光の拠点をつくる。そのためには、拡充する機能に応じたハード整備と、ソフト施策が不可欠である。ソフト施策としては、整備・活用の可能性を確認する意味で、活用社会実験の実施を検討する。

## イメージボード（短期活用イメージ）



西の湖テラス イメージ



西の湖キャンプ イメージ



ヨシの浮島アート イメージ

< 出典 >

上図：<https://cn.nytimes.com/travel/20180913/what-to-do-in-paris-on-the-seine/>

下左図：<https://www.phillymag.com/fooboos/2020/06/12/parks-on-tap-summer-2020/>

下右図：<http://blondebrunettetravel.com/lake-titicaca/>